

## マーケット概況（2024年2月）

2月の債券相場は、前月末の米国FOMC後の議長会見で3月利下げに否定的な姿勢が示されたことから、株価が急落し米国債は買いが優勢となった流れを受け、買われて始まった。10年373回債は0.735%で取引を開始し、一部では投資家の需要不足が懸念されていた10年債入札を波乱なく通過したことで、翌2日には0.660%まで利回りが低下した。ただ、同日に発表された1月米雇用統計が好調な結果となり、早期の利下げ期待がさらに後退して米国債が売られると、本邦債券市場も売り優勢となった。警戒感の強かった30年債入札を順調に通過したことなどから買われる場面もあったが、1月米国CPIが市場予想を上回ると一段と金利上昇圧力が強まり、翌14日に10年373回債は0.765%まで売られた。しかし、翌日に国内の第3四半期GDPが発表され2期連続のマイナス成長が明らかになると、日銀が政策正常化に慎重になるとの思惑から債券市場は反発した。その後も残存15.5年超39年以下の流動性供給入札や20年債入札を順調に通過し超長期債は堅調に推移した一方で、日銀審議委員の出口戦略への言及などを背景にマイナス金利政策解除を織り込む動きから中期債は月末にかけて売り優勢となった。29日に2年458回債はカレントとして2011年4月以来となる0.195%まで利回りが上昇し、最終的に10年373回債は0.710%で取引を終えた。

### <短国市場>

3Mは-0.150%でスタートしたが、足元金利の上昇や2,000億円の発行増額により、月中旬には-0.11%台に上昇した。16日の3M1213回債入札では最高落札利回り-0.1098%と想定よりも強い結果となり、セカンダリーでは-0.135%まで低下した。22日の3M1215回債は低調な1Y入札の結果を受け、最高落札利回り-0.09%台に上昇したが、投資家需要に支えられ最終的に-0.105%で取引を終えた。6M1211回債は投資家需要が限定的で最高落札利回り-0.0882%と前月比7.0bp上昇する低調な結果となり、月末にかけては-0.070%売りの気配で終えた。1Y1214回債はマイナス金利解除を織り込む動きから最高落札利回り0.0468%と前月比8.0bp上昇し、2014年10月以来のプラス金利となり、0.030%で月内の取引を終えた。

### <一般債市場>

2月の定例地方債は、10年債・5年債のスプレッドはいずれも前月から横ばいとなり、5ヵ月連続の国債カーブ対比+9.0bp、+10.0bpで条件決定されたが、発行額自体の少なさから順調に消化された。また、入札物の地方債・政保債も旺盛な需要がみられ、スプレッドのタイト化が目立ったほか、既発債も年度末に向けて良好な需給環境が継続し、堅調地合いとなった。SDGs債関連では、石川県が同県初のグリーンボンドを発行した。社債発行額は4,064億円となり、前年同月(11,425億円)から大幅減少し、また前月(7,130億円)からも減少となった。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#373	0.735(1日)	0.660(2日)	0.765(14日)	0.710(29日)
#372	0.705(1日)	0.620(2日)	0.725(14日)	0.675(29日)
#362	0.395(2日)	0.390(2日)	0.485(14日)	0.460(29日)
#164-#165(5Y)	0.305(1日)	0.265(2日)	0.380(29日)	0.365(29日)
#187(20Y)	1.535(1日)	1.415(26日)	1.560(1日)	1.460(29日)
#1205-#1211 TDB(6M)	-0.120(8日)	-0.120(8日)	-0.120(8日)	-0.120(8日)
#1209-#1215 TDB(3M)	-0.150(1日)	-0.155(2日)	-0.100(27日)	-0.105(28日)